

## 会議録：「第3回恵那市産業振興会議」

---

日時：平成30年3月16日（金曜日） 15:00～

場所：恵那市役所西庁舎3階 災害対策室B・C

参加者：出席13人、欠席2人（別紙参照）

### 1. 開会

○事務局：「只今から第3回恵那市産業振興会議を始めます。本日は、西尾委員はご欠席です。レジメに沿って進行します。はじめに小坂市長からあいさつ申し上げます。」

### 2. 市長あいさつ

小坂市長：「第3回恵那市産業振興会議にお集まりいただき、ありがとうございます。この会議で議論いただいた結果、平成30年度の事業としていくつか予算化することができました。改めて感謝申し上げます。ただ、いくつかの課題も見つかったのではないかと思います。もっと議論を深めるべきではないかという意見や議論を横に広げてもいいのではないかという意見もあるかと思います。この会議は今年度で終わるわけではなく、平成30年度以降も継続して煮詰めていきたいと考えています。産業の活性化なくして地域の活性化はないと考えています。今回が今年度の締めとなりますが、引き続きご協力をお願いします。」

### 3. 議事

○事務局：「ここからの議事・進行は森岡会長をお願いします。」

○森岡会長：「この会議は議論のための議論ではだめだということでスタートした。検討部会やこの会議で議論をいただいた中で、具体的に事業化へ進めることができた。前回の会議では、アクションプランに費用対効果などを考えて優先順位を付けたらどうか、などの意見をいただいた。それらの意見を踏まえてビジョンをまとめてもらった。すぐに取り組むべき内容を『短期事業』、今後実施していかなければいけないものを『中長期事業』として整理していただいた。『短期事業』を実施していく中で『中長期事業』に反映させていくということも想定してもらっている。さらに実施主体も可視化してもらっているので事務局から説明をお願いします。」

○事務局：「①恵那市産業振興ビジョン検討部会での最終意見について」「②恵那市産業振興ビジョン（最終案）について」「③今後のスケジュールについて」を説明。

「ビジョンの内容としては変更はありません。前回会議の中で、アクションプランに優先順位を付けて実施すべきとの意見をいただいたので、今後具体的な事業として落とし込んでいくものを『中長期事業』、具体的な事業として早速実施していくものを『短期事業』として整理しました。短期事業を実施していく中で、中長期事業の内容を肉付けしていきたいと考えています。その議論を平成30年度も引き続き振興会議やビジョン検討部会で行っていく予定です。」

#### 4. 意見交換

- 森岡会長：「事務局からの説明に対して意見を申し上げます。」
- 委員：「素案の中に『おいしい』という言葉が出てこない。名古屋の知人は『米がおいしい』『野菜がおいしい』と言ってくれる。もっと『おいしい』を強調すべき。  
商品券については、商工会議所が実施している移動商工会議所の中で挙がっていたもので商工会議所からの要望として市へお願いした。大型店舗での使用については、1,000 m<sup>2</sup>以下の店舗に限定としても大型店舗と同様に生鮮食品など扱っているところもある。売り場面積だけではハンディがあるため検討が必要。」
- 委員：「おいしいものをどうやって回していくか。食・農連携として料理人と生産者をつなぐ事業を実施した。来年度はポータルサイトの整備を実施し、生産者側と料理人両サイドから魅力を発信していく。料理人は、恵那で作られている物を知らないことが多い。」
- 委員：「『新たな担い手』とあるが、受け身な取り組みに思える。今ある事業所が無くなる前に行政や商工会議所などが相談に乗る必要がある。余計なお世話と言われるくらいでよい。無くなってしまう前に相談する気力は事業者にはない。それだけのパワーはないからお店を閉める。事業承継をしていく必要がある。」
- 森岡会長：「枠組みはできているので行動と進め方だ。」
- 委員：「相談機能だけでは受け身。こちらから動かないといけない。」
- 委員：「現在の商店街は生活と商売が空間的に分かれていない。北海道の商店街では商売部分と住宅部分を分離した。住宅部分を立ち退いてもらい若い人達に商店街へ入ってもらう。」
- 委員：「やめてしまうのであれば手放す気はあるはず。活動も一つの資源である。」
- 委員：「高校・農業大学に行政も関わってほしい。一人でも多く地元で農業をする人を増やしたい。」
- 委員：「木材価格が下がっていく中、いかに高く売るか。木材があっても製材する場所がなく郡上まで持っていくためコストがかなりかかる。付加価値が付くようにできるといい。」
- 委員：「金融機関としては商品券事業などに協力できる。ビジョンのアクションプランには具体的になっていないものもある。見える化すること、分かりやすいものにしてほしい。」
- 委員：「人手不足の話はよく聞く。新卒の採用は保護者の意見に左右されることが多いため市内企業を知ってもらうことが大事。」

- 委員：「ビジョンには中津川・恵那チャレンジプロジェクトの体験プログラムなど入れてもらっている。連携がうまく取れていないため、関係各者がもっと協力する必要がある。」
- 委員：「人材確保についてはPR不足もあるが学校との連携を強くしていかななくてはいけない。今まで外国人の雇用はなかったが平成30年度はベトナム人が来る。恵那南高校へも企業説明に行っている。大学生より高校生がほしい。中小企業が大学生を雇うのは難しい。」
- 委員：「魅力的な店舗はあるが、どうやってその店を守っていくのが課題。将来的に自立していくことが大事。商品券事業は協同組合が実施していくような仕組みにするといい。」
- 委員：「アクションプランを具体的なものに落とし込み、重点プランだけでも確実に実行してほしい。」
- 委員：「商品券事業の協同組合方式は東京の烏山商店街がやっている。負担も生じるが協同組合での意見は良いと思う。」
- 委員：「ポイントが付けばマイナンバーカードにも貯めることができる。」
- 森岡会長：「アクションプランを実行に移すことが重要。失敗はない。ストーリーがないとだめ。」
- 委員：「中津川で飲んでも、中津川のお酒が店舗にない。中津だけでなく恵那も同じ。地元の酒を飲みたい。」
- 委員：「恵那ハヤシはPR等やっているか？」
- 委員：「恵那ハヤシは組合があり、22店舗が加入している。実際販売しているところはもう少し少ない。」
- 委員：「商工会青年部が焼きラーメンをやっているが今後どうなるかわからない。途中で止めてしまうのはだめ。やるなら徹底的にやらないといけない。」
- 委員：「恵那ハヤシはふるさと甲子園に参加している。」
- 森岡会長：「ストーリーの中に位置づけて差別化することが重要。今後、コンテンツをつくる中で検討してほしい。」
- 事務局：「ご意見ありがとうございました。今回でビジョン策定とさせていただきます。平成30年度になりましたら、事業を実施していきながら効果検証を行っていただきたいとのことでよろしくお願いします。」

#### 4. 閉会

- 森岡会長：「では、今回の会議はこれで閉会とします。」